九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

ちりめん本と日本昔噺

九州大学附属図書館

田村, 隆
九州大学大学院人文科学研究院 : 専門研究員

https://doi.org/10.15017/8710

出版情報：展観資料, 2007-12-05. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

ちりめん本と日本昔噺（むかしばなし）

平成２０年２月２６日（火）～３ 月５日（水）　　福岡県立図書館

The fisher-boy Urashima（浦島太郎）
B.H.Chamberlain 訳述　小林永濯画
明治 19 年刊　九州大学附属図書館筑紫文庫所蔵

主催：九州大学附属図書館
共催：福岡県立図書館　福岡県図書館協会

ちりめん本と日本昔噺（むかしばなし）

わたしたちが子供の頃に読む「桃太郎」や「カチカチ山」、「浦島太郎」などの昔話は、早く明治 18(1885)年から同 25(1892)年にかけて英語・ドイツ語・フランス語・オランダ語・スペイン語などさまざまな言語に訳され、美しい色づかいの挿絵を伴って 20 編から成る“Japanese Fairy Tale Series”（日本昔噺シリーズ）として出版されました。出版元は東京の弘文社で、出版人は長谷川武次郎です。それが今回展示する「ちりめん本」です。

「ちりめん本」とは、いったん印刷した和紙を圧縮して縮緬（ちりめん）のような皺を寄せたものを綴じて作る本のことで、圧縮前よりも一回り小さく仕上がります。クレープ・ペーパーと呼ばれる独特の質感から、外国人向けの土産物として大変悦ばれたようです。シリーズ所収の作品は大半がなじみ深いもので、たとえば英語版では、「桃太郎」は“Momotaro or Little Peachling”、「カチカチ山」は“Kachi-kachi mountain”、「浦島太郎」は“The fisher-boy Urashima”というタイトルが付けられています。また、内容は同じままに単色刷の廉価版も刊行されていますが、こちらは国内で外国語の教科書として用いられたようです。ちりめん本については近年、石澤小枝子『明治の欧文挿絵本　ちりめん本のすべて』（三弥生書店、平成 16 年）に代表される研究が発表され、また国際日本文化研究センターの「ちりめん本データベース」（http://shinku.nichibun.ac.jp/chirimen/）が公開されるなど、注目が高まっています。

単行本のちりめん本も同じく長谷川武次郎の手によって何点か刊行されています。明治 27（1894）年刊の“Dichtergrüsse aus dem Osten”は、「東の国からの詩の挨拶」と訳されますが、本書は『万葉集』や『古今集』などの和歌をドイツ語に訳して載せる他、浦島太郎の話を紹介したり、桶狭間の戦いについて解説する頁もあります。挿絵にはさまざまな工夫が凝らされ、色づかいも「日本昔噺」シリーズの折より一層豊かになっています。

今回の展示では、九州大学文学部英語学英文学研究室所蔵の筑紫文庫の資料を中心に、ちりめん本および関連の書物を展示します。解説等については人文科学研究院の田村隆専門研究員の協力を得ました。どうぞごゆっくり御覧下さい。

筑紫文庫（ちくしぶんこ）について

九州大学文学部英語学英文学研究室所蔵（中央図書館内）　3,279 冊
英文学者・故豊田実名誉教授の旧蔵書から成る日本英学史関係資料
明治時代初期・中期の語学書 377 点、文芸作品 2,669 冊。昭和 20 年寄贈。
目録：豊田実『日本英学史の研究』（千城書房）、『筑紫文庫目録』（私製）
※筑紫文庫は、資料保存のため一般の方は利用できませんのでご了解ください。

九州大学附属図書館

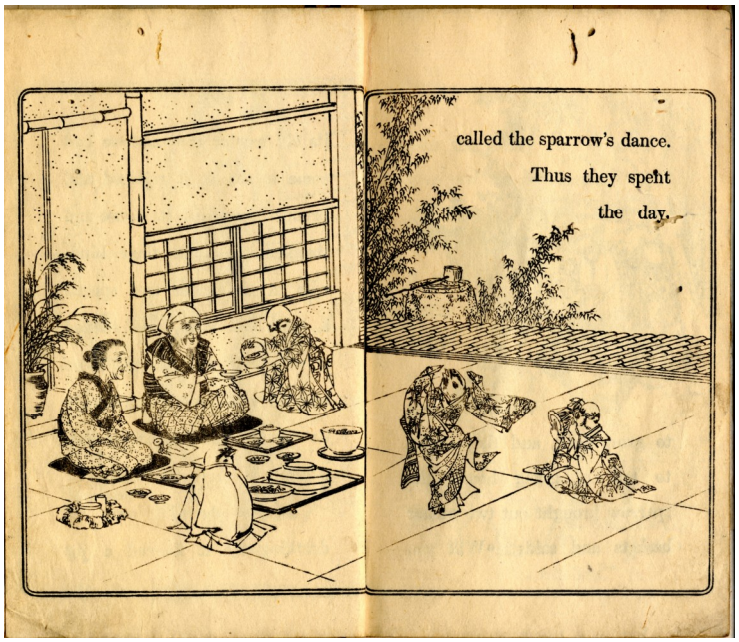
Sippeitaro （竹篦太郎）

ちりめん本。縦 15.2 ㎝、横 10.4 ㎝。紙に縮緬のような細かい皺が寄っているのがわかる。

Kachi-kachi mountain（カチカチ山）

平紙本。縦 18.0 ㎝、横 12.2 ㎝。
圧縮していない分、一回り大きい。
旗には“Sticking Plasters for Sale”
と記されている。

Shita Kiri Suzume （舌切雀）



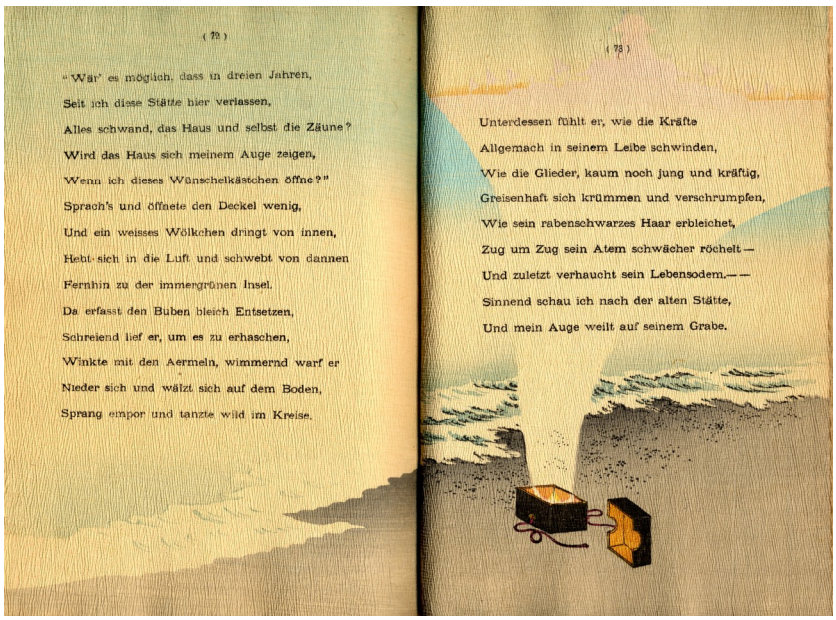
平紙本、単色刷。縦 18.1 ㎝、横 12.3 ㎝。
語学の教科書として用いられたもので、価格はちりめん本の 3 分の 1 程度であったという。

Dichtergrüsse aus dem Osten : japanische Dichtungen

（東の国からの詩の挨拶）

K. Florenz 訳述　明治 27 年刊　ちりめん本

附属図書館所蔵。『ちりめん本のすべて』に紹介される梅花女子大学蔵本や、国際日本文化研究センターの画像データベース所載の本は明治 41 年や同 44 年の後刷ですが、本学所蔵本は明治 27 年の初版です。初版と後刷は内容はほぼ同じながら、頁を記した位置や、挿絵の細部など、いくつかの相違点が見られます。

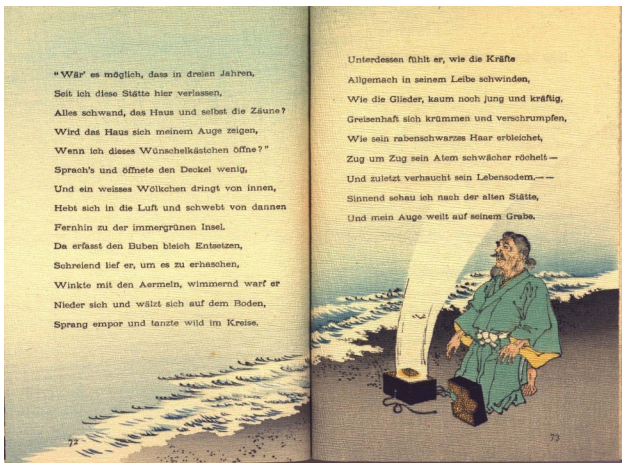


本学附属図書館蔵本（明治 27 年　初版）

たとえば、pp.72-73 に描かれた、浦島太郎が乙姫からもらった玉手箱を開ける場面では、初版では開いた玉手箱と立ち上る煙のみが描かれていて、肝心の浦島太郎の姿はありません。

ところが、国際日本文化研究センター所蔵の第 13 版（明治 44 年）では、玉手箱を開けたために老いた姿となってしまった浦島太郎が描かれています。

実は、本書の「浦島太郎」に関する挿絵は、明治 19 年刊の“The fisher-boy Urashima”に酷似しています。両書とも弘文社の長谷川武次郎が手がけたものであり、挿絵の構図を転用したものと思われます。三図を比べると、版を改めた段階で煙の向きや波の模様なども含め、“The fisher-boy Urashima”の挿絵に一層近づいていることがわかります。



国際日本文化研究センター蔵本
（明治 44 年　第 13 版）

筑紫文庫の“The fisher-boy Urashima ”は末尾を欠くため、国際日本文化研究センター蔵本を掲載した。

The fisher-boy Urashima　（明治 19 年刊）